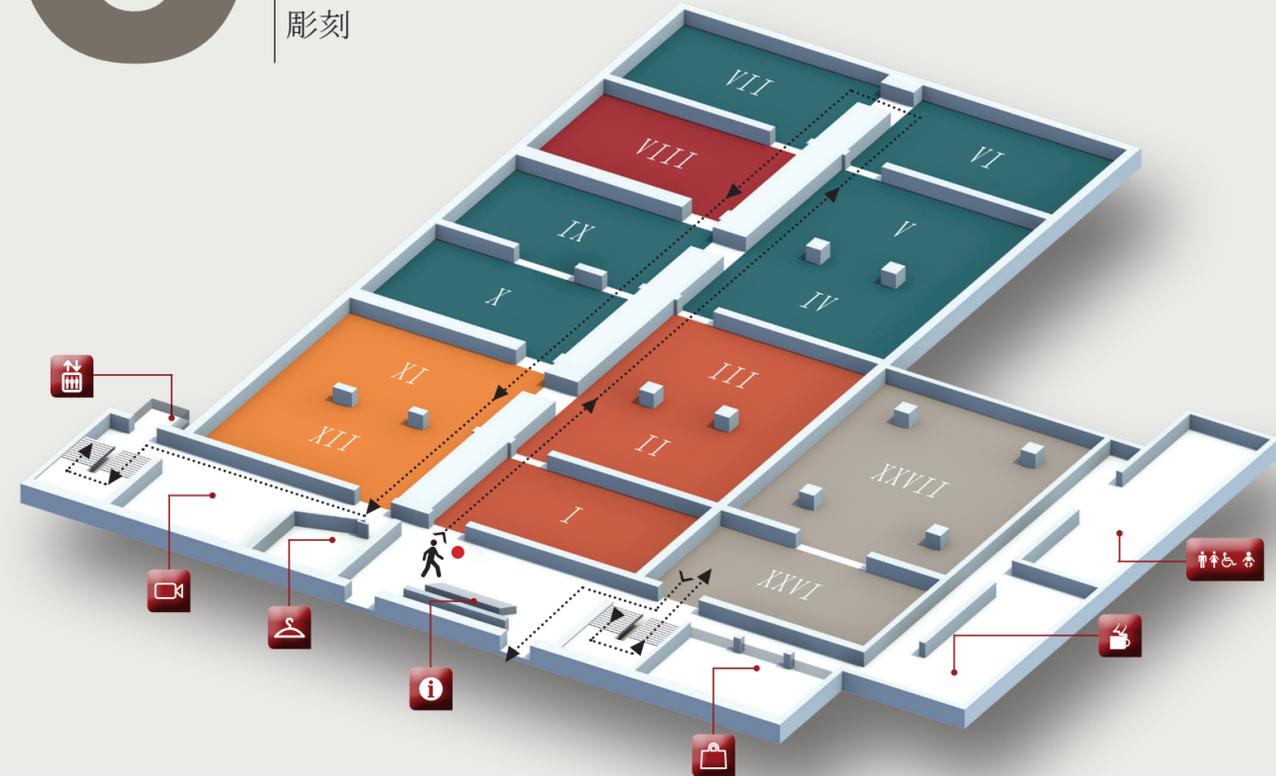


# 0

階

ミノア文明コレクション  
彫刻

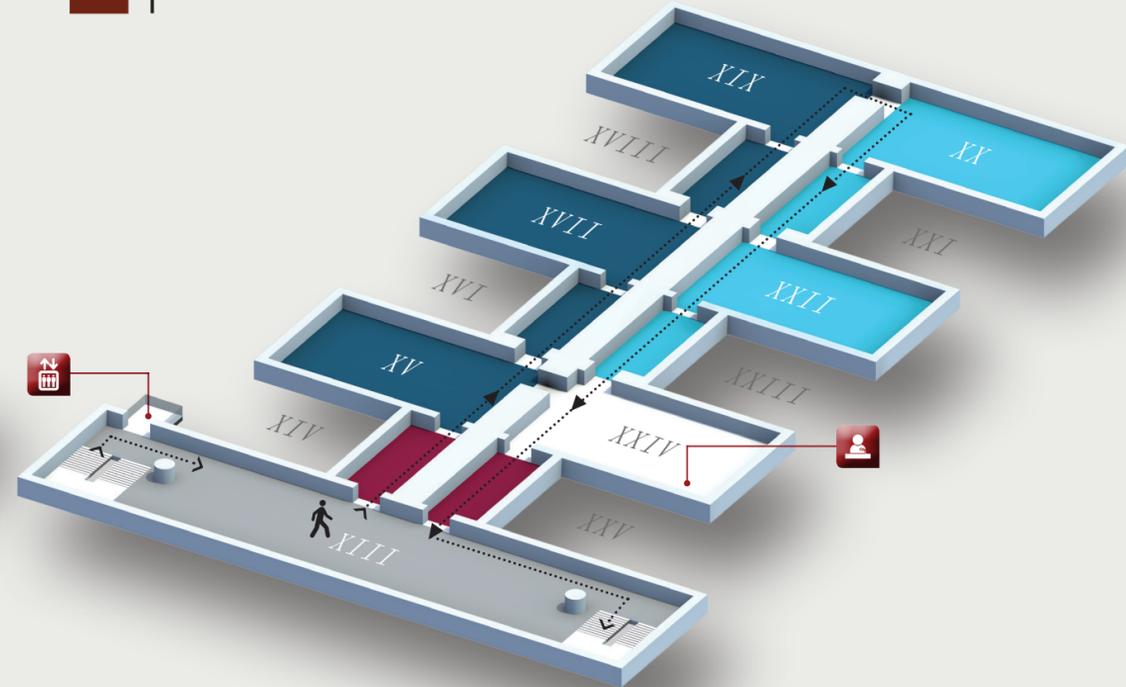


- エレベーター
- マルチメディア
- クロークルーム
- 案内所
- 売店

# 1

階

ミノア文明フレスコ壁画  
古代ギリシャ・ローマ時代コレクション



- カフェ
- お手洗い
- エレベーター
- 講義堂



エレセリアス（自由の）広場 20世紀の初期 中央は最古の考古学博物館 右側は聖フランシスコ修道院

イラクリオン考古学博物館は、20世紀の初めにクレタ文明初期の古代コレクションを収蔵する目的で設立されました。1930年代に建築家P.カラディノス氏の設計により再建され、現代建築運動の革新的で特徴的な一例とされていました。2001年に更なる大規模な改修工事が始まり、2014年に完成しました。

展示は1階と2階の27室に渡り、新石器時代からローマ期（紀元前6千年～紀元後3世紀）までの考古学品が収められています。イラクリオン考古学博物館は、先史時代のコレクションを成すミノア美術の傑作の数々で、世界的に有名です。

博物館の庭園には、聖フランシスコのベネチア様式の修道院の遺跡が保存されています。

開館時間：<http://heraklionmuseum.gr/>



イラクリオン考古学博物館  
イラクリオン市クサンスウディトゥ通り2番  
電話番号：2810-279002、2810-279000  
<http://heraklionmuseum.gr/>  
Eメール：amh@culture.gr



## イラクリオン 考古学博物館



復元コレクション

## ご案内

展示は、1階のミノア文明コレクション（第I～XII室）に始まり、2階のミノア・フレスコ壁画（第XIII室）ミノア期（第XV～XXII室）へと続き、1階の彫刻コレクション（第XXVI～XXVII室）に至ります。S. ヤマラキス氏とN. Th. メタクサ氏の個人蔵は1階の別室（第XXIII）に、ミノア文明を持つクレタ島の現在と過去の共鳴として展示されています（第XIV、XXV室）。

第I室および第II室には、クレタ島の新石器時代の生活様式や青銅器時代前期（紀元前6000～1900年）の典型が展示されています。クノッソス新石器時代の集落、メサラ旧宮殿のドーム型墳墓、およびマリア、モフロス、アルカネスの古墳群から発掘された陶器や豪華品が展示されています。マリア宮殿出土のミツバチをモチーフにした黄金のペンダントなど名高い展示品は、ミノア人の洗練された美学を証言しています。頂上の聖壇から発掘された粘土製の

献上物は、神への崇拝を表しています。

第III室ではクノッソス、ファイストス、マリアで初の宮殿が建設された時期（紀元前1900～1700年）の生活様式、経済や行政について紹介しています。色とりどりのカマレス式の土器が特徴的で、中でもファイストスの「国王のディナー食器」が代表作です。

第IV室およびV室には、海上交易の発展と共に新しい宮殿や別荘の建設が進み、宮殿の支配体制の強化（紀元前1700～1450年）を物語っています。最も重要な展示物に、宗教的な意味合いを持つと推定される最古のミノア文字が刻まれた名高いファイストスの円盤があります。

第VI室は、スポーツ、見せ物、余興など日常生活に献上しています。クノッソス宮殿から出土された牡牛の上で宙返りする男をかたどった象牙像や、牡牛飛びの情景を描いたフレスコ壁画、マリアの剣やアギア・トゥリアダ出土の石製の壺（リュトン）が有名で、ミノア社会の趣や様式を反映しています。

第VII室およびVIII室は、ミノアの宗教関係の展示です。頂上の聖壇から出土された小立像や儀式用の器、牡牛の頭の形をした壺（リュトン）、クノッソス宮殿の神殿宝物庫から出土された「蛇を持つ女神」が有名で、ザクロス宮殿の石製の儀式器、神の

頭現を彫った黄金の印章指輪など神への崇拝の様子がうかがえます。

第IX室では、クノッソス宮殿時代の後期（紀元前1450～1300年）における宮殿の役割について、また紀元前1900年から1300年までのこの地域の墓地とカミラリス・ファイストスからの出土品が展示されています。特に重要なのは、ギリシャ線文字Bが刻まれた粘土板で、宮殿の体制と経済に関する情報を提供しています。



主に最終宮殿時代のクノッソス、アルカネス、ファイストスの墓地から出土された死者が描かれた埋葬品が、第X室に展示されており、隣接する第XI室には、宮殿の支配体制崩壊後の集落、聖域、墓地の埋葬品が収められています。注目の展示物は、カニア・ゴルティナスとガジから出土された手を挙げている大きな女神の粘土像です。

死者の世界、死後の世界への信仰が描かれた小型の棺が展示されている第XII室を通過すると、博物館の2階、ミノア文明のフレスコ壁画が飾られている広々とした第XIII室に出ます。宮殿での暮らしや自然界を題材にした、最も著名な作品（「百合の王子」「壺（リュトン）を運ぶ男」「青の貴婦人たち」「パリジェンヌ」「イルカ」などのフレスコ壁画）の数々が展示されています。

歴史的な古代作品の展示は続きます。第XV～XVII室では、鉄器時代初期のクレタ社会を披露しています。日常生活、初の法律の制定と記録を行う国家的組織、近隣諸国との文化交流を活発に行うことを可能にした地中海盆地、貿易の繁栄など紀元前最初の千年期、クレタ社会初期の特色が明示されています。シミス・ヴィアノスやゴルティナスなどその時代の崇高、かつ長期に渡り栄えた聖域から出土された献上物や、イデオス・アンドゥロス、ディクテオス・アンドゥロス、イナトスなどの神聖な洞窟からの出土品も展示されています。

前史時代の墓地の埋蔵品は、第XVIII～XIX室に展示されており、特にプリニラス洞窟の墓石が重要です。別の展示室はクレタ島で出土され、ギリシャ文字の起源となった現存する最古の碑文に捧げられています。

第XX室には、古代ギリシャ時代からローマ時代

まで（紀元前5世紀～紀元後3世紀）のクレタ島の都市国家と聖地に関する展示、第XXI小室ではクレタ貨幣の進化の様子を展示しています。この階の巡回は古代ギリシャおよびローマ時代の墓地の展示をする第XXII室までとなります。クノッソスとヘロソニソスの墓地から出土された埋葬品、イラペトゥラの埋葬に使われたユニークな青銅像は、その時代の死の世界に対する概念を表しています。

1階に戻ると、博物館の彫刻コレクションが展示されている第XXVI室とXXVII室をご覧頂けます。一連のゴルティナス建築とプリニラス神殿のレリーフからは、ギリシャ記念碑および彫刻の発展にクレタ文明が貢献したことが顕著に読み取れ、さらにローマ時代の肖像や像には、古典古代の有名作品の模倣がみられ、古代ギリシャ・ローマ時代の芸術の最盛を物語っています。

